

笹川記念保健協力財団 研究助成  
助成番号：2014A-08

[様式E－1]

2014年2月2日

公益財団法人 笹川記念保健協力財団

理事長 喜 多 悦 子 殿

2014年度ホスピス緩和ケアに関する研究助成

## 研 究 報 告 書

研 究 課 題：在宅がん患者の QOL に影響を与える要因を明らかにする全国調査

所属機関・職 筑波大学 医学医療系 講師

研究代表者氏名 浜野 淳

## I 研究の目的

### 【研究目的】

本研究の主目的は、家族から見た在宅がん患者の QOL に影響を与える要因（特に医療者の関わり方）を明らかにすることである。また、副次的な目的は、自宅で看取ることに関する家族の意思の強さに関連する要因を探索することを明らかにすることである。

### 【背景】

がん罹患率及び死亡数は増加し続けており、高齢化社会の進展に伴って、今後がん罹患率、死亡数の増加が見込まれている。がん患者が望む療養先は変化することが示されており、がん患者が望んだ場所で過ごすことは望ましい QOL の達成にとって、重要な要素であると示唆されている[1]。また、がん患者が自宅で亡くなることは病院で亡くなるより家族から見た QOL が高いことが明らかにされている[2]。

しかし、自宅で亡くなったがん患者の家族から見た QOL に影響を及ぼす要因について調べた大規模な研究は国際的にもない。

本研究において、家族から見た在宅がん患者の QOL に影響を与える要因（特に医療者の関わり方）が明らかになることは、在宅患者の QOL を高めるための関わり方を明らかにするために意義があると考えられる。

## II 研究の内容・実施経過

【調査項目】 先行研究[3-8]、研究者の議論などから、調査項目を決定し下記項目について質問票を作成し調査した。（参考資料：表 1～7 参照）

### 1. ケアの構造・プロセスの評価

ケアに対する評価尺度(Care Evaluation Scale: CES)の短縮版を用いて、回答方法は「非常にそう思う」「そう思う」「ややそう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」「まったくそう思わない」の 6 段階による評価とした。評価される下位尺度は、「説明・意思決定（患者・家族）」「身体的ケア（医師・看護師）」「精神的ケア」「設備・環境」「費用」「利用しやすさ」「連携・継続」「介護負担軽減」である。（参考資料：表 1）

### 2. ケアのアウトカムの評価

日本人がん患者の終末期の QOL を遺族の代理評価により測定する尺度として作成された、終末期の QOL 評価尺度（Good Death Inventory）を用いた。本尺度は、日本人対象の質的研究、および、量的研究から抽出された、終末期の QOL の構成概念をもとに、遺族評価によりがん患者の終末期の QOL を評価する尺度として開発された。（参考資料：表 2）

### 3. 在宅がん患者の QOL に影響を与える要因

#### 1) 本人、家族の病状・予後理解

本人、家族の病状・予後理解として、「病名を伝えられていた」、「病気が治らないことを伝えられていた」、「予測される余命を伝えられていた」などについて、「はい・いいえ」で質問した。（参考資料：表 3）

#### 2) 今後の病状変化、予測される余命についての説明

病院医師、往診医、訪問看護師それぞれから、「今後の病状変化、予測される余命について十分に説明を受けたと思うか」に対して「全く十分ではなかった」から「十分だった」までの 4 件法で質問した。（参考資料：表 4）

#### 3) 在宅死に関する病院主治医、在宅医の考え方

病院主治医、在宅医が在宅で亡くなることをどのように考えているかということに関して「具合が悪くなっても自宅で最期を迎えることができると言われた」などについて、「とてもそう思う」から「全くそう思わない」までの 6 件法で質問した。（参考資料：表 5）

#### 4) 病院主治医、在宅医、訪問看護師に対する患者の信頼感

病院主治医、在宅医、訪問看護師に対する患者の信頼感として、「患者さんは病院の医師を信頼していた」などについて、「とてもそう思う」から「全くそう思わない」までの6件法で質問した。(参考資料：表5)

#### 5) 患者、家族と病院主治医、在宅医、訪問看護師、ケアマネジャーの関係性

患者、家族と病院主治医、在宅医、訪問看護師、ケアマネジャーの関係性として、「心配なことを病院の医師に気兼ねなく相談できた」「どこで最期を迎えさせたいか、往診に来ていた医師とよく相談できた」などについて、「とてもそう思う」から「全くそう思わない」までの6件法で質問した。(参考資料：表5)

#### 6) 在宅ケアスタッフ同士の関係性

病院主治医、在宅医、訪問看護師、ケアマネジャー同士の関係性として、「病院と在宅でみてる人たちは、顔なじみのようだった」「往診に来ていた医師と訪問看護師は治療やケアの方針が一貫していた」「ケアマネジャーと訪問看護師はケアの方針が一貫していた」などについて、「とてもそう思う」から「全くそう思わない」までの6件法で質問した。(参考資料：表5)

#### 7) 患者、家族の価値観、生活状況に対する病院主治医、在宅医、訪問看護師の理解

患者、家族の価値観、生活状況に対する病院主治医、在宅医、訪問看護師の理解として、「往診に来ていた医師は本人や家族の価値観を分かってくれていた」「往診に来ていた医師は体のことだけでなく生活のことも気にしてくれていた」などについて、「とてもそう思う」から「全くそう思わない」までの6件法で質問した。(参考資料：表5)

#### 4. 自宅で看取ることに関する家族の意思の強さ

「自宅で看取ることに関する家族の意思の強さ」を測定するために、「最初から自宅で看取るつもりだった」、「最初は自宅で看取るつもりはなかった」、「最初は分からなかったが、次第に看取りたい(看取れる)と思うようになった」など5項目について「とてもそう思う」から「全くそう思わない」までの6件法で質問した。(参考資料：表6)

#### 【対象】

対象施設は、2013年7月1日現在における日本ホスピス緩和ケア協会会員である、在宅でのホスピス・緩和ケアを提供する診療所等(正会員51施設)のうち本研究への参加に同意した施設とした。各施設にて2014年1月31日以前の死亡した患者のうち、2014年1月31日から選択基準を満たす1施設100名を連続に後向きに同定し対象とした。ただし、2011年10月31日以前の死亡者は含めない。期間内の適格基準を満たす死亡者数が100名以下の場合は、全例を対象とした。

#### 【方法】 自記式質問紙による郵送調査・施設背景調査

#### 【対象者数・施設数】 703名、22施設

### III 研究の成果

703名に送付し、2015年1月15日現在552名から返送があった。調査協力施設の倫理委員会に承認に時間を要したなどの理由により当初予定していた期間より調査期間が延長したため、最終的な回答率は未確定である。そのため、本研究の成果として、1月15日時点で回答頂いている552名における各質問項目の回答結果(図1～11)を示すこととし、本研究の目的である在宅がん患者のQOLに影響を与える要因に関しては、調査が終了後に解析を行う。

## 1. 患者及び回答者属性

患者属性は男性 323 名 (58.5%)、平均年齢 74.1±11.6 歳であった。原発部位は、肺 (20.8%)、胃 (10.8%)、膵 (10.3%) などであった。回答者属性は女性 359 名 (73%)、平均年齢 62.6±11.7 歳、患者との関係は配偶者 263 名 (53.2%)、患者の子供 166 名 (33.6%) などであった。

## 2. ケアの構造・プロセスの評価 (図 1)、満足度 (図 2)

Care Evaluation Scale 短縮版の各項目に対して「非常にそう思う」「そう思う」「ややそう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」「まったくそう思わない」の 6 段階による回答方法で、ケアの構造・プロセスの評価を行った。(図 1) いずれの項目でも高い評価を得ていることが分かったが、「必要な時に待たずに入院(利用)できた」がやや低い評価となっているのは、適切なタイミングで在宅療養を導入できなかった可能性があることが示唆される。また、亡くなられた場所で受けられた医療に対する満足度は 90 % 以上が「やや満足、満足、非常に満足」であった。(図 2)

図 1 ケアの構造・プロセスの評価

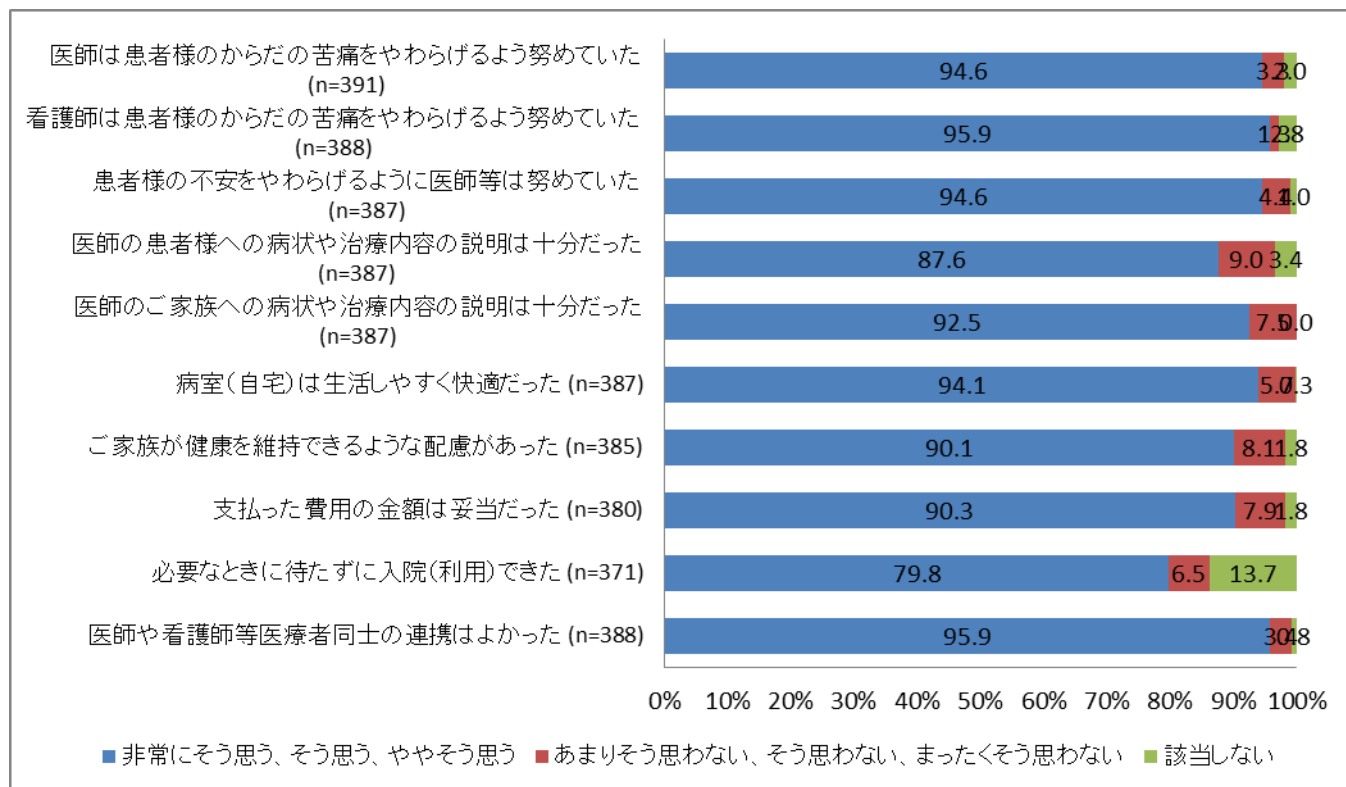
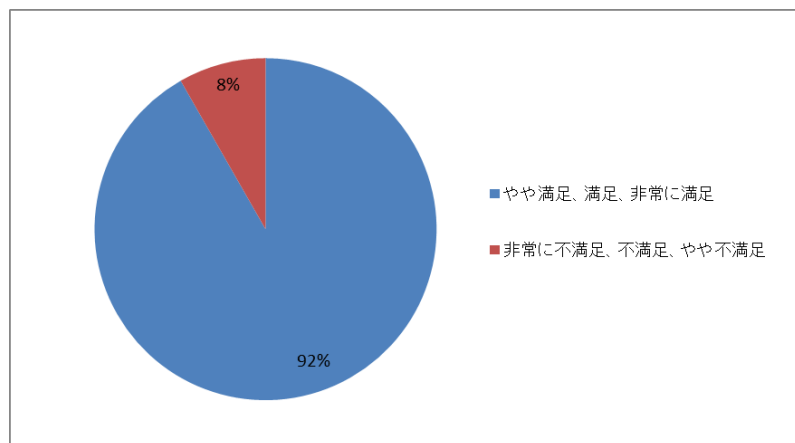


図 2 亡くなられた場所で受けられた医療に対する満足度



### 3. ケアのアウトカムの評価（図3－1，2）

日本人がん患者の終末期の QOL を遺族の代理評価により測定する尺度として作成された、終末期の QOL 評価尺度（Good Death Inventory）を用いて評価した。「共通して重要と考える」コア 10 項目、「人によって大切さは異なるが重要なことである」オプション 8 項目に対する「非常にそう思う、そう思う、ややそう思う」という回答の合計は、いずれも先行研究[9]と同程度の割合であった。

図3－1 ケアのアウトカムの評価（コア 10 項目）

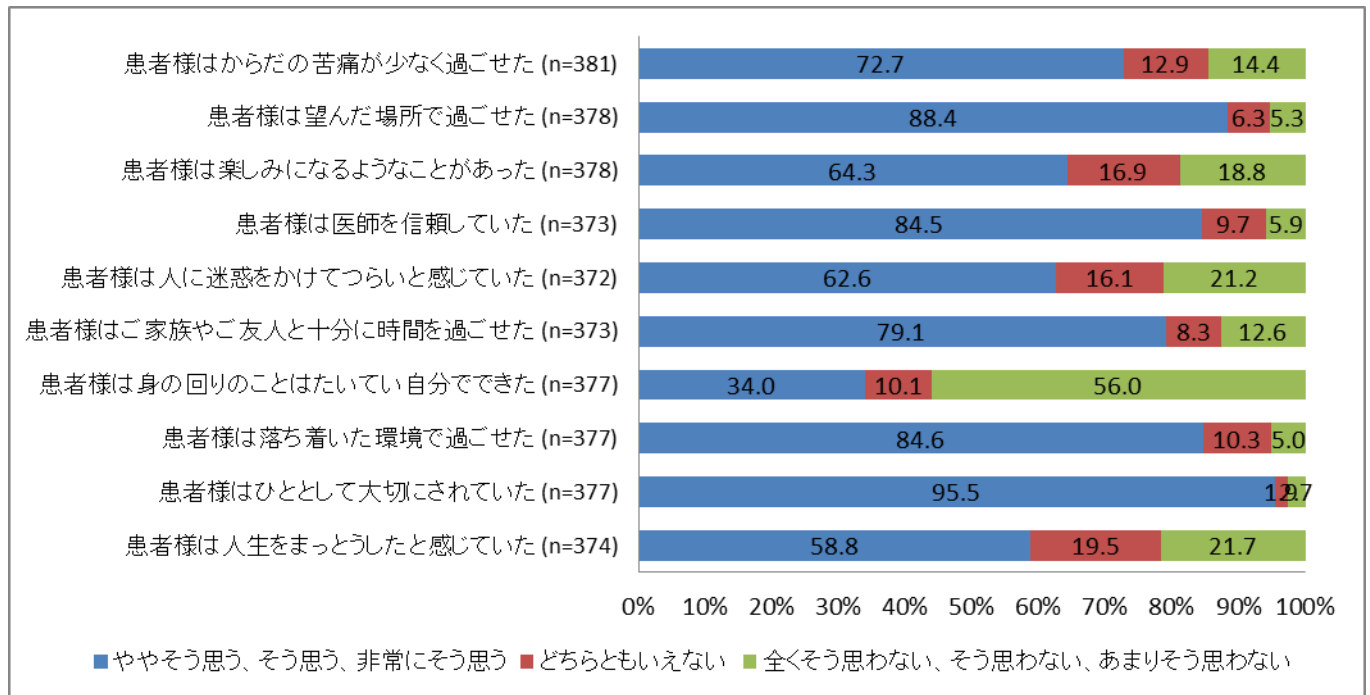
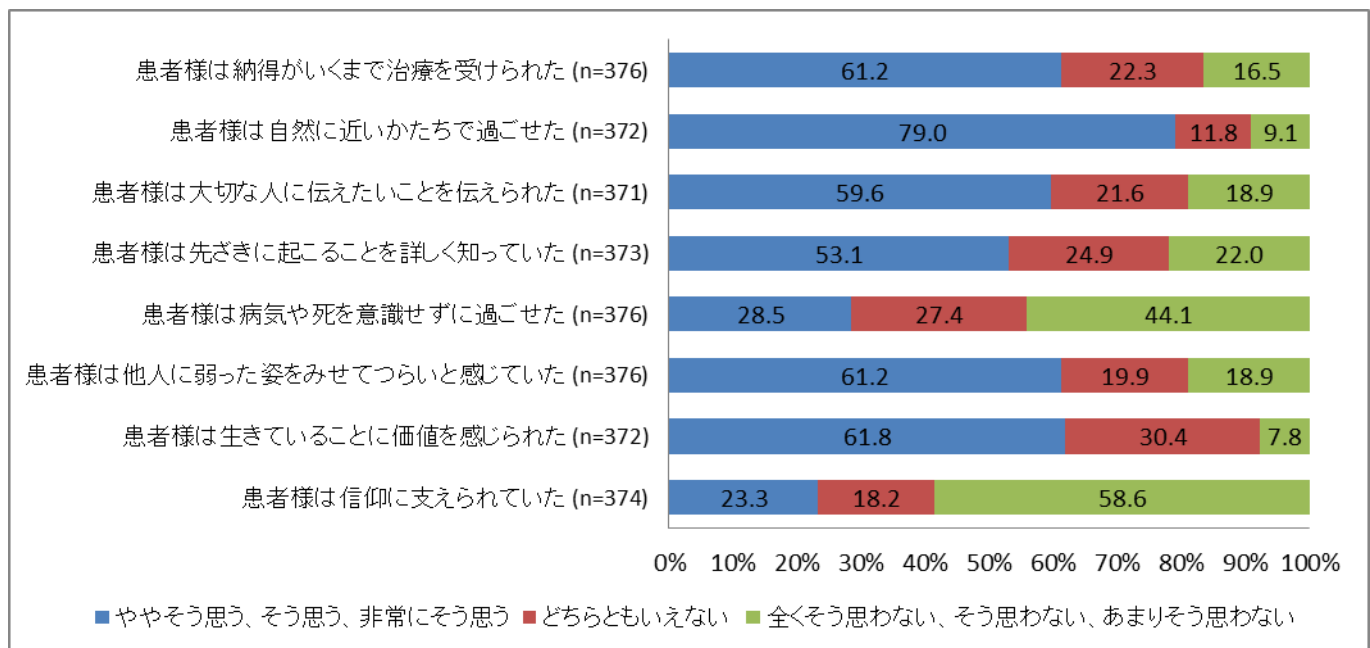


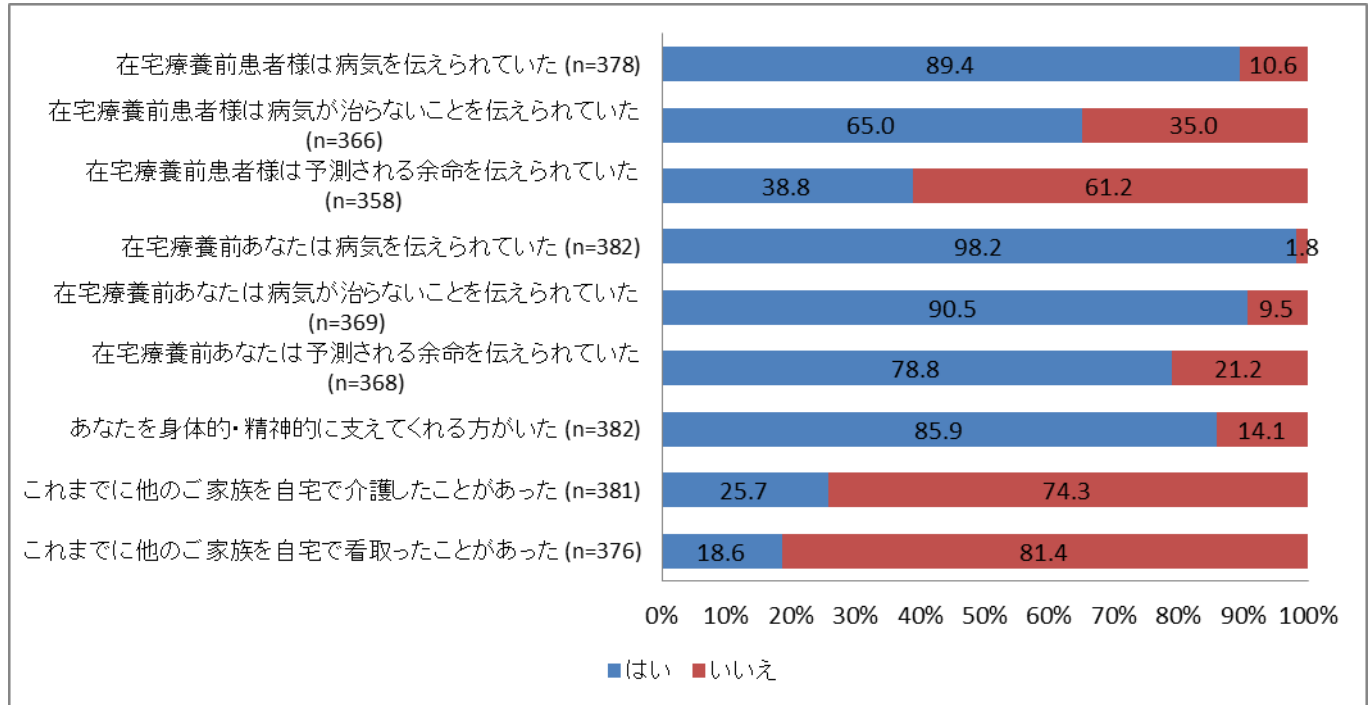
図3－2 ケアのアウトカムの評価（オプション 8 項目）



#### 4. 本人、家族の病状・予後理解（図4）

在宅療養が開始される前に患者、家族が病気のこと、予測される余命について伝えられていたかについて質問した。また、在宅療養を支援する人物の存在や在宅介護、自宅看取りの経験の有無についても質問した。病状や予後に関して、在宅療養前は、本人よりも家族に伝えられることが多いことが示唆された。

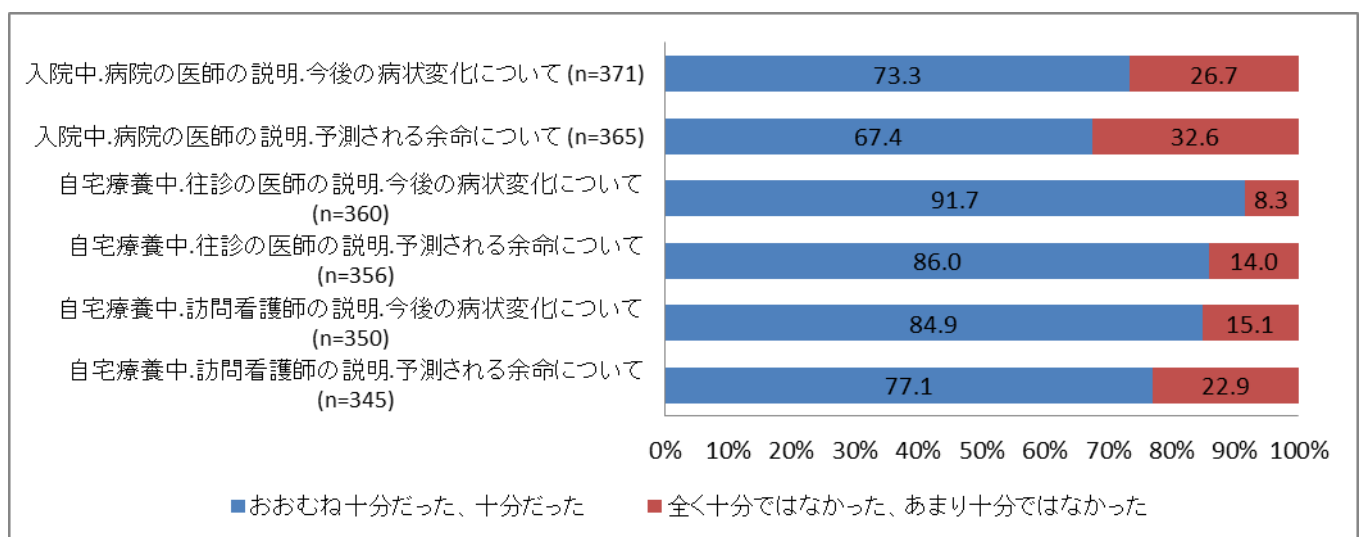
図4 本人、家族の病状・予後理解



#### 5. 今後の病状変化、予測される余命についての説明（図5）

病院医師、在宅医、訪問看護師それぞれから、「今後の病状変化、予測される余命について十分に説明を受けたと思うか」について質問した。在宅医による今後の病状変化、予測される余命に関する説明、訪問看護師による今後の病状変化に関する説明が「おおむね十分だった、十分だった」と感じている遺族が多いことが分かった。

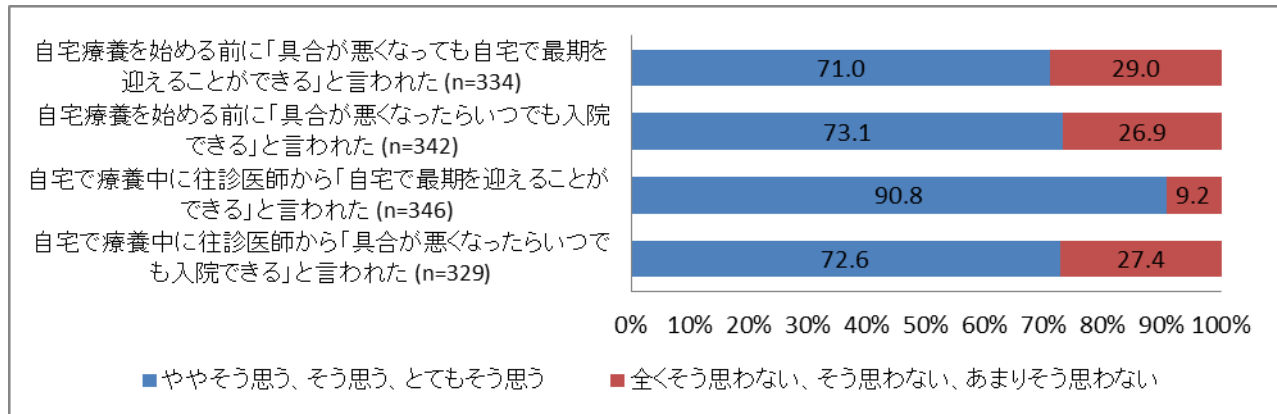
図5 今後の病状変化、予測される余命についての説明



## 6. 在宅死に関する病院主治医、在宅医の考え方（図6）

病院主治医、在宅医が在宅で亡くなることをどのように考えているかということに関して「具合が悪くなっても自宅で最期を迎えることができる」と言われた」などについて質問した。在宅医から「自宅で最期を迎えることができる」と言われた」と考えている遺族が多いことが分かった。

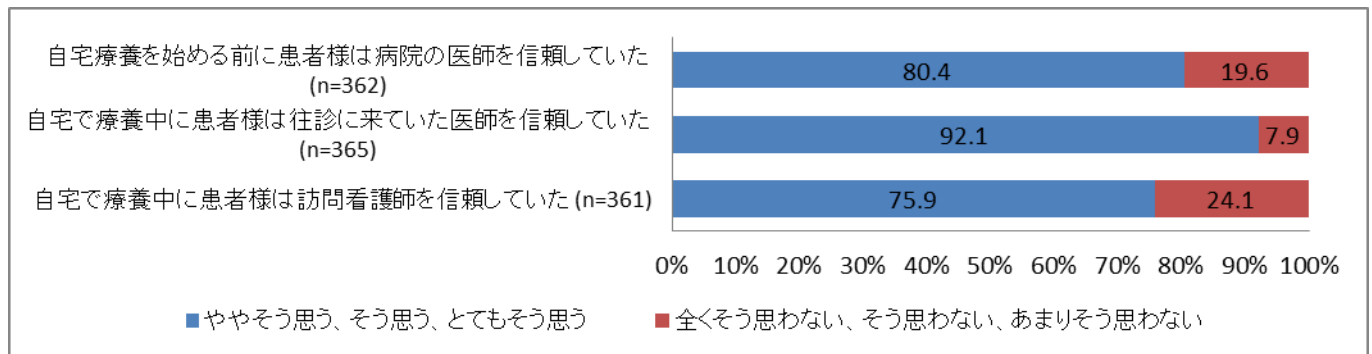
図6 在宅死に関する病院主治医、在宅医の考え方



## 7. 病院主治医、在宅医、訪問看護師に対する患者の信頼感（図7）

病院主治医、在宅医、訪問看護師に対する患者の信頼感として、「患者さんは病院の医師を信頼していた」などについて質問した。患者さんが病院主治医、在宅医、訪問看護師を信頼していたと感じている遺族が多いことが分かった。

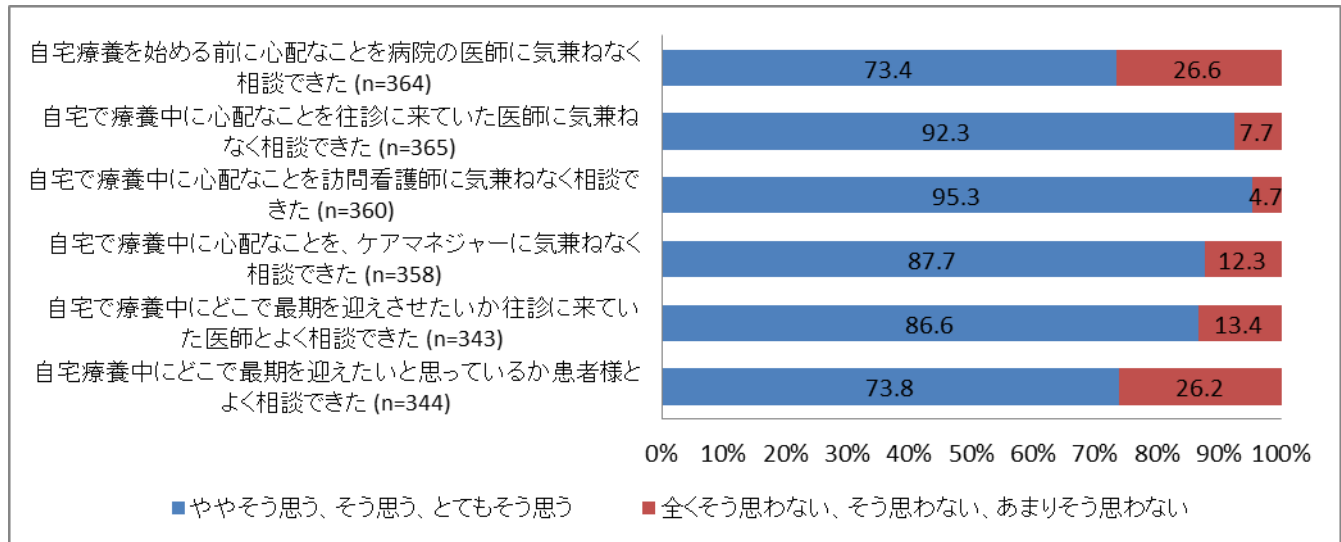
図7 病院主治医、在宅医、訪問看護師に対する患者の信頼感



## 8. 患者、家族と病院主治医、在宅医、訪問看護師、ケアマネジャーの関係性（図8）

患者、家族と病院主治医、在宅医、訪問看護師、ケアマネジャーの関係性を評価するために、「心配なことを病院の医師に気兼ねなく相談できた」「どこで最期を迎えさせたいか、往診に来ていた医師とよく相談できた」などについて質問した。病院医師、在宅医、訪問看護師、ケアマネジャーと気兼ねなく相談できる関係性が構築できていたことが示唆された。

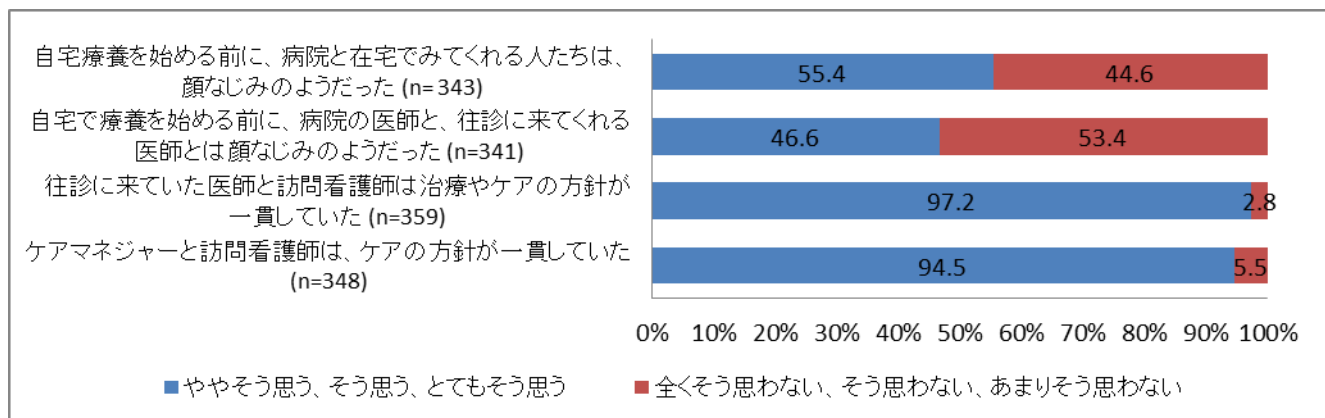
図8 患者、家族と病院主治医、在宅医、訪問看護師、ケアマネジャーの関係性



## 9. 在宅ケアスタッフ同士の関係性（図9）

病院主治医、在宅医、訪問看護師、ケアマネジャー同士の関係性を評価するために、「病院と在宅でみてる人たちは、顔なじみのようだった」「往診に来ていた医師と訪問看護師は治療やケアの方針が一貫していた」「ケアマネジャーと訪問看護師はケアの方針が一貫していた」などについて質問した。在宅ケアチーム間で方針に一貫性があったと感じている遺族が多い一方で、病院職員と在宅ケアチーム間に顔の見える関係性が構築されていると感じた遺族は約半数程度であることが分かった。

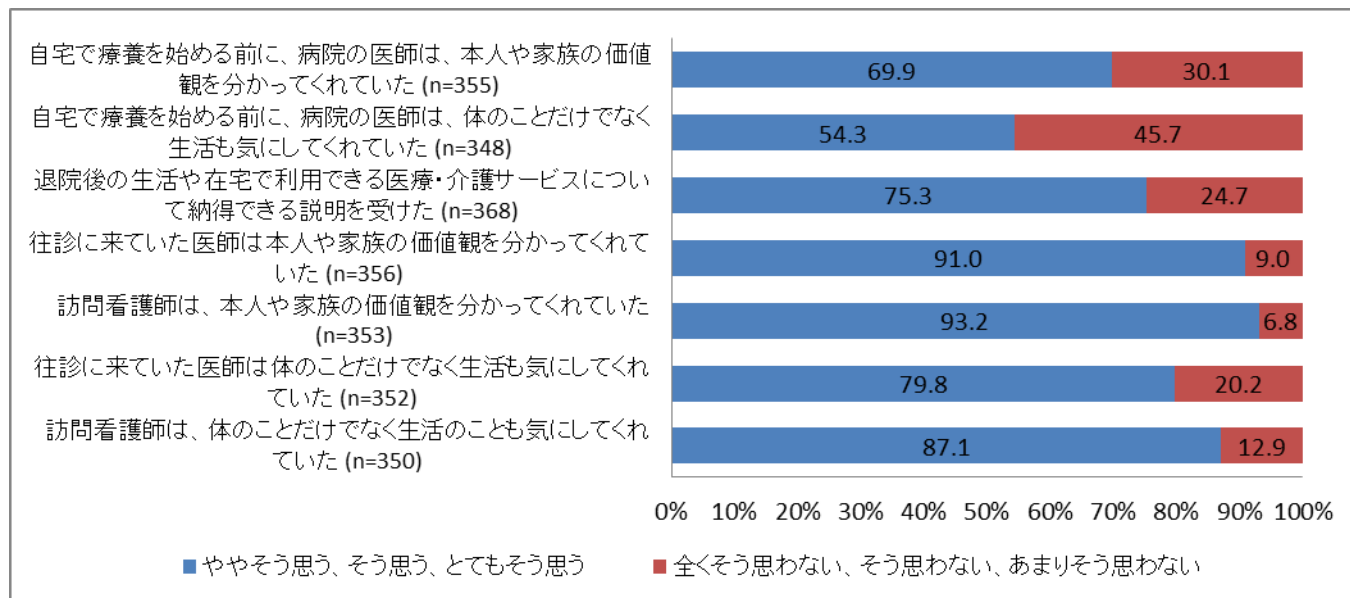
図9 在宅ケアスタッフ同士の関係性



## 1 0. 患者、家族の価値観、生活状況に対する病院主治医、在宅医、訪問看護師の理解（図 1 0）

患者、家族の価値観、生活状況に対する病院主治医、在宅医、訪問看護師の理解を評価するために、「往診に来ていた医師は本人や家族の価値観を分かってくれていた」「往診に来ていた医師は体のことだけでなく生活のことも気にしてくれていた」などについて質問した。在宅医、訪問看護師は本人、家族の価値観を理解し、生活面にも気を配ってくれたと感じている遺族が多く、病院の医師に対して、そのように感じている遺族の割合よりも多いことが分かった。

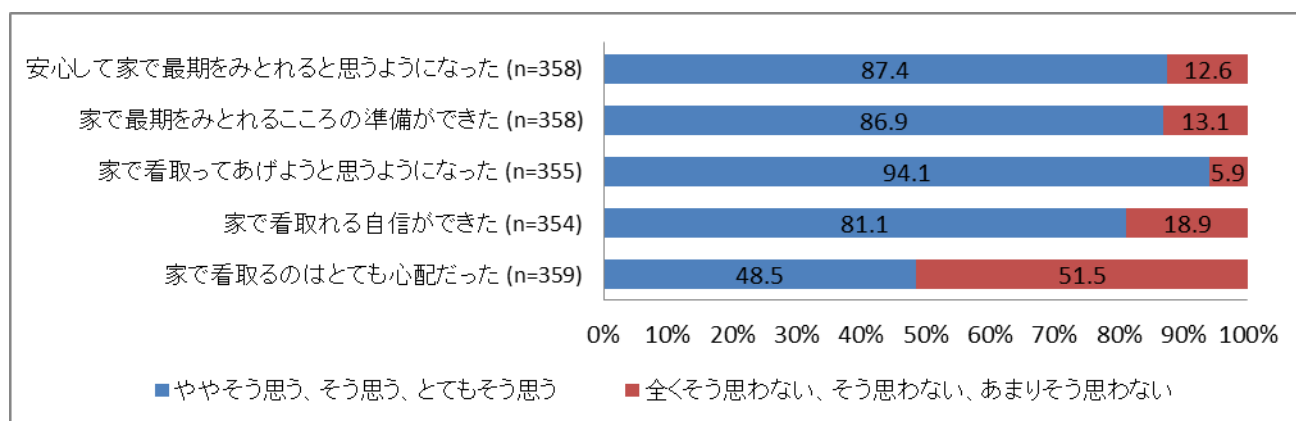
図 1 0 患者、家族の価値観、生活状況に対する病院主治医、在宅医、訪問看護師の理解

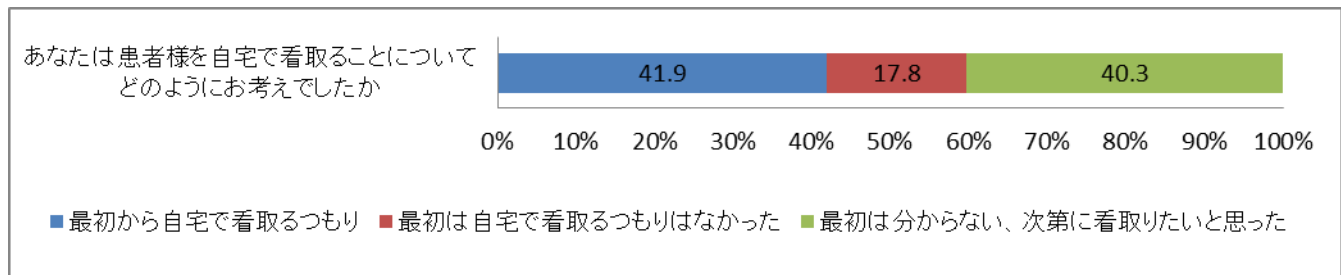


## 1 1. 自宅で看取ることに関する家族の意思の強さ（図 1 1）

「自宅で看取ることに関する家族の意思の強さ」を測定するために、「最初から自宅で看取るつもりだった」、「最初は自宅で看取るつもりはなかった」、「最初は分からなかったが、次第に看取りたい（看取れる）と思うようになった」など 5 項目と、「あなたは自宅で看取ることについてどのように考えていたか」について質問した。遺族の約半数が「家で看取るのは心配だった」と答えているが、80%以上が「家で看取れる自信ができた」「安心して家で最期を看取れると思うようになった」と答えており、「最初は自宅で看取るつもりはなかった」「最初は自宅で看取るか分からないが、次第に看取りたいと思った」と答えた遺族に意識の変化が起きたことが推測される。

図 1 1 自宅で看取ることに関する家族の意思の強さ





#### IV 今後の課題

調査対象者の全回答を集計後、遺族による GDI の合計得点を目的変数として、多変量ロジスティック解析によって影響する要因を分析する。

副次的目的については、「自宅で看取ることに関する家族の意思の強さ」を質問項目の合計得点として目的変数として、多変量ロジスティック解析によって影響要因を分析する。尺度得点として合計できることを、因子分析、内的一貫性（Cronbach の  $\alpha$ ）で確認する

#### V 研究の成果等の公表予定（学会、雑誌）

国内外の学会、学術誌にて発表予定である。

#### 【引用文献】

1. Miyashita, M, M Sanjo, T Morita, K Hirai, and Y Uchitomi. "Good Death in Cancer Care: a Nationwide Quantitative Study." *Annals of Oncology : Official Journal of the European Society for Medical Oncology / ESMO* 18, no. 6 (July,2007): 1090-7.
2. Wright, Alexi A, Nancy L Keating, Tracy A Balboni, Ursula A Matulonis, Susan D Block, and Holly G Prigerson. "Place of Death: Correlations with Quality of Life of Patients with Cancer and Predictors of Bereaved Caregivers' Mental Health." *Journal of Clinical Oncology : Official Journal of the American Society of Clinical Oncology* 28, no. 29 (October 10, 2010): 4457-64.
3. Nakamura, Shunsuke, Masafumi Kuzuya, Yoshimasa Funaki, Wataru Matsui, and Naoki Ishiguro. Factors Influencing Death at Home in Terminally Ill Cancer Patients." *Geriatrics & Gerontology International* 10 (2) (April,2010): 154-60.
4. Fukui, Sakiko, Naoshi Fukui, and Hiromi Kawagoe. "Predictors of Place of Death for Japanese Patients with Advanced-stage Malignant Disease in Home Care Settings: a Nationwide Survey." *Cancer* 101 (2) (July 15,2004): 421-9.
5. Gomes, Barbara, and Irene J Higginson. "Factors Influencing Death at Home in Terminally Ill Patients with Cancer: Systematic Review." *BMJ (Clinical Research Ed.)* 332, no. 7540 (March 4, 2006): 515-21.
6. Fukui, S, J Fujita, M Tsujimura, Y Sumikawa, Yayoi Hayashi, and N Fukui. "Late Referrals to Home Palliative Care Service Affecting Death at Home in Advanced Cancer Patients in Japan: a Nationwide Survey." *Annals of Oncology : Official Journal of the European Society for Medical Oncology / ESMO* 22, no. 9 (September 2011): 2113-20.
7. Tang, Siew Tzuh. "Influencing Factors of Place of Death Among Home Care Patients with Cancer in Taiwan." *Cancer Nursing* 25, no. 2 (April 2002): 158-66.
8. Zhang, Baohui, Matthew E Nilsson, and Holly G Prigerson. "Factors Important to Patients' Quality of Life at the End of Life." *Archives of Internal Medicine* 172, no. 15 (August 13, 2012): 1133-42.
9. 宮下光令. 望ましい死の達成度と満足度の評価. 遺族によるホスピス. 緩和ケアの質の評価に関する研究. 2010:18-22.

表1. 患者様が亡くなられた場所で、亡くなる前の1か月以内に受けられた医療について、あなたの評価をおうかがいします。質問に対し最もあてはまる番号に○をつけてください。もしも該当することがない場合（患者様の苦痛が全くなかったなど）は、「該当しない」をお選びください。

|                                        | 非常に<br>そう思う | そう思う | やや<br>そう思う | あまり<br>そう思わない | そう思わない | まったく<br>そう思わない | 該当しない |
|----------------------------------------|-------------|------|------------|---------------|--------|----------------|-------|
| ○ 医師は、患者様のからだの苦痛をやわらげるように努めていた         | 1           | 2    | 3          | 4             | 5      | 6              | 7     |
| ○ 看護師は、患者様のからだの苦痛をやわらげるように努めていた        | 1           | 2    | 3          | 4             | 5      | 6              | 7     |
| ○ 患者様の不安や心配をやわらげるように、医師、看護師、スタッフは努めていた | 1           | 2    | 3          | 4             | 5      | 6              | 7     |
| ○ 医師の患者様への病状や治療内容の説明は十分だった             | 1           | 2    | 3          | 4             | 5      | 6              | 7     |
| ○ 医師のご家族への病状や治療内容の説明は十分だった             | 1           | 2    | 3          | 4             | 5      | 6              | 7     |
| ○ 病室（自宅）は生活しやすく、快適だった                  | 1           | 2    | 3          | 4             | 5      | 6              | 7     |
| ○ ご家族が健康を維持できるような配慮があった                | 1           | 2    | 3          | 4             | 5      | 6              | 7     |
| ○ 支払った費用の金額は妥当だった                      | 1           | 2    | 3          | 4             | 5      | 6              | 7     |
| ○ 必要なときに待たずに入院（利用）できた                  | 1           | 2    | 3          | 4             | 5      | 6              | 7     |
| ○ 医師や看護師など医療者どうしの連携はよかった               | 1           | 2    | 3          | 4             | 5      | 6              | 7     |

|                                           | 非常に<br>不満足 | 不満足 | やや<br>不満足 | やや<br>満足 | 満足 | 非常に<br>満足 |
|-------------------------------------------|------------|-----|-----------|----------|----|-----------|
| ○ 全般的に患者様が亡くなられた場所で受けられた医療は満足でしたか・・・・・・・・ | 1          | 2   | 3         | 4        | 5  | 6         |

表2. 患者様は、亡くなられた場所における療養生活をどのようにお感じになられていたと思われますか。それぞれ最も近い番号に○をおつけください。

|                       | 全く<br>そう思わない | そう<br>思わない | あまり<br>そう思わない | どちらとも<br>いえない | そう<br>思う | やや<br>そう思う | 非常に<br>そう思う |
|-----------------------|--------------|------------|---------------|---------------|----------|------------|-------------|
| ○ 患者様は痛みが少なく過ごせた      | 1            | 2          | 3             | 4             | 5        | 6          | 7           |
| ○ 患者様はからだの苦痛が少なく過ごせた  | 1            | 2          | 3             | 4             | 5        | 6          | 7           |
| ○ 患者様はおだやかな気持ちで過ごせた   | 1            | 2          | 3             | 4             | 5        | 6          | 7           |
| ○ 患者様は望んだ場所で過ごせた      | 1            | 2          | 3             | 4             | 5        | 6          | 7           |
| ○ 患者様は楽しみになるようなことがあった | 1            | 2          | 3             | 4             | 5        | 6          | 7           |

|                            |   |   |   |   |   |   |   |
|----------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| ○ 患者様は医師を信頼していた            | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| ○ 患者様は人に迷惑をかけてつらいと感じていた    | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| ○ 患者様はご家族やご友人と十分に時間を過ごせた   | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| ○ 患者様は身の回りのことはたいてい自分でできた   | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| ○ 患者様は落ち着いた環境で過ごせた         | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| ○ 患者様はひととして大切にされていた        | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| ○ 患者様は人生をまっとうしたと感じていた      | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| ○ 患者様は納得がいくまで治療を受けられた      | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| ○ 患者様は自然に近いかたちで過ごせた        | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| ○ 患者様は大切な人に伝えたいことを伝えられた    | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| ○ 患者様は先ざきに起こることを詳しく知っていた   | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| ○ 患者様は病気や死を意識せずに過ごせた       | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| ○ 患者様は他人に弱った姿をみせてつらいと感じていた | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| ○ 患者様は生きていることに価値を感じられた     | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| ○ 患者様は信仰に支えられていた           | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |

表3 患者様とご家族の状況について伺います。あてはまる方に○をお付けください。

|                           |                   | はい | いいえ |
|---------------------------|-------------------|----|-----|
| 在宅療養に移る前に、患者様は            | 病名を伝えられていた        |    |     |
|                           | 病気が治らないことを伝えられていた |    |     |
|                           | 予測される余命を伝えられていた   |    |     |
| 在宅療養に移る前に、あなたは            | 病名を伝えられていた        |    |     |
|                           | 病気が治らないことを伝えられていた |    |     |
|                           | 予測される余命を伝えられていた   |    |     |
| あなたを身体的・精神的に支えてくれる方がいた    |                   |    |     |
| これまでに、他のご家族を自宅で介護したことがあった |                   |    |     |
| これまでに、他のご家族を自宅で看取ったことがあった |                   |    |     |

表4 入院中、在宅療養中のそれぞれで、以下について、十分に説明を受けたと思いますか

|     |          |             | 全く<br>十分では<br>なかった | あまり<br>十分では<br>なかった | おおむね<br>十分<br>だった | 十分<br>だった |
|-----|----------|-------------|--------------------|---------------------|-------------------|-----------|
| 入院中 | 病院の医師の説明 | 今後の病状変化について | 1                  | 2                   | 3                 | 4         |
|     |          | 予測される余命について | 1                  | 2                   | 3                 | 4         |

|       |                  |             |   |   |   |   |
|-------|------------------|-------------|---|---|---|---|
| 自宅療養中 | 往診に来ていた<br>医師の説明 | 今後の病状変化について | 1 | 2 | 3 | 4 |
|       |                  | 予測される余命について | 1 | 2 | 3 | 4 |
|       | 訪問看護師の説明         | 今後の病状変化について | 1 | 2 | 3 | 4 |
|       |                  | 予測される余命について | 1 | 2 | 3 | 4 |

表5 患者様が入院中や自宅で過ごされた時期に患者様と  
あなたのお考え、状況について伺います。

以下のそれぞれについて「全くそう思わない」から  
「とてもそう思う」までのうち、最もあてはまるものを  
1つだけ選び○をお付けください。

|                                                             | 全く<br>そう<br>思わない | そう<br>思わ<br>ない | あ<br>ま<br>り<br>そ<br>う<br>思<br>わ<br>ない | や<br>や<br>そ<br>う<br>思<br>う | そ<br>う<br>思<br>う | と<br>て<br>も<br>そ<br>う<br>思<br>う |
|-------------------------------------------------------------|------------------|----------------|---------------------------------------|----------------------------|------------------|---------------------------------|
| <b>自宅で療養を始める前（入院中）の説明や情報提供</b>                              |                  |                |                                       |                            |                  |                                 |
| 「具合が悪くなっても自宅で最期を迎えることができる」と言われた                             | 1                | 2              | 3                                     | 4                          | 5                | 6                               |
| 「具合が悪くなったらいつでも入院できる」と言われた                                   | 1                | 2              | 3                                     | 4                          | 5                | 6                               |
| 患者様は、病院の医師を信頼していた                                           | 1                | 2              | 3                                     | 4                          | 5                | 6                               |
| 心配なことを、病院の医師に気兼ねなく相談できた                                     | 1                | 2              | 3                                     | 4                          | 5                | 6                               |
| 病院と在宅でみてくれる人たちは、顔なじみのようだった                                  | 1                | 2              | 3                                     | 4                          | 5                | 6                               |
| 病院の医師と、往診に来てくれる医師とは顔なじみのようだった                               | 1                | 2              | 3                                     | 4                          | 5                | 6                               |
| 病院の医師は、本人や家族の価値観を分かってくれていた                                  | 1                | 2              | 3                                     | 4                          | 5                | 6                               |
| 病院の医師は、体のことだけでなく生活も気にしてくれていた                                | 1                | 2              | 3                                     | 4                          | 5                | 6                               |
| 退院後の生活や在宅で利用できる医療・介護サービス（訪問診療、訪問看護、入浴、ベッドなど）について納得できる説明を受けた | 1                | 2              | 3                                     | 4                          | 5                | 6                               |
| <b>自宅で療養を行っているときの説明や情報提供</b>                                |                  |                |                                       |                            |                  |                                 |
| 患者様は、往診に来ていた医師を信頼していた                                       | 1                | 2              | 3                                     | 4                          | 5                | 6                               |
| 患者様は、訪問看護師を信頼していた                                           | 1                | 2              | 3                                     | 4                          | 5                | 6                               |
| 心配なことを、往診に来ていた医師に気兼ねなく相談できた                                 | 1                | 2              | 3                                     | 4                          | 5                | 6                               |
| 心配なことを、訪問看護師に気兼ねなく相談できた                                     | 1                | 2              | 3                                     | 4                          | 5                | 6                               |
| 心配なことを、ケアマネジャーに気兼ねなく相談できた                                   | 1                | 2              | 3                                     | 4                          | 5                | 6                               |
| 往診医師から「自宅で最期を迎えることができる」と言われた                                | 1                | 2              | 3                                     | 4                          | 5                | 6                               |
| 往診医師から「具合が悪くなったらいつでも入院できる」と言われた                             | 1                | 2              | 3                                     | 4                          | 5                | 6                               |
| 往診に来ていた医師は本人や家族の価値観を分かってくれていた                               | 1                | 2              | 3                                     | 4                          | 5                | 6                               |
| 訪問看護師は、本人や家族の価値観を分かってくれていた                                  | 1                | 2              | 3                                     | 4                          | 5                | 6                               |
| 往診に来ていた医師は体のことだけでなく生活も気にしてくれていた                             | 1                | 2              | 3                                     | 4                          | 5                | 6                               |
| 訪問看護師は、体のことだけでなく生活のことも気にしてくれていた                             | 1                | 2              | 3                                     | 4                          | 5                | 6                               |
| 往診に来ていた医師と訪問看護師は治療やケアの方針が一貫していた                             | 1                | 2              | 3                                     | 4                          | 5                | 6                               |
| ケアマネジャーと訪問看護師は、ケアの方針が一貫していた                                 | 1                | 2              | 3                                     | 4                          | 5                | 6                               |
| 薬に関して訪問薬剤師に詳しく聞くことができた                                      | 1                | 2              | 3                                     | 4                          | 5                | 6                               |

|                                     |   |   |   |   |   |   |
|-------------------------------------|---|---|---|---|---|---|
| どこで最期を迎えさせたいか、往診に来ていた医師とよく相談できた     | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| どこで最期を迎えたいと思っているか、患者様とよく相談できた       | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| <b>患者様を家で看取ることについての最終的なあなたのお気持ち</b> |   |   |   |   |   |   |
| 安心して家で最期をみとれると思うようになった              | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 家で最期をみとれるころの準備ができた                  | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 家で看取ってあげようと思うようになった                 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 家で看取れる自信ができた                        | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 家で看取るのはとても心配だった                     | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |

表6 あなたが実際に行っていた介護にはどのようなことがありますか？あてはまるものすべてに○をつけてください

- |                          |               |                 |
|--------------------------|---------------|-----------------|
| 1. 排泄（トイレ介助やおむつ交換）       | 2. 清潔（着替えや入浴） | 3. 食事（食事を食べさせる） |
| 4. 移動（歩くときに支えたり車いすを操作する） |               |                 |

あなたは患者様を自宅で看取ることについてどのようにお考えでしたか？もっともあなたの状況に**近いもの** 1つに○をつけてください。

- |                                        |                      |
|----------------------------------------|----------------------|
| 1. 最初から自宅で看取るつもりだった                    | 2. 最初は自宅で看取るつもりはなかった |
| 3. 最初は分からなかったが、次第に看取りたい（看取れる）と思うようになった |                      |